

[短 報]

臨地実習指導者の役割に関する研究の動向

齊藤 美沙

北海道医療大学看護福祉学部看護学科実践基礎看護学講座

キーワード

臨地実習, 実習指導者, 役割

I. 緒言

近年、患者の安全が重要視される中で学生の臨地実習の範囲や機会が限定される傾向にある。そのために看護基礎教育で習得する看護技術と臨床現場で求められるものにはギャップが生じており、それを軽減するために可能な限り臨地実習の内容を充実させることが課題とされている¹⁾。臨地実習指導者（以下、実習指導者とする）は実習内容充実のために不可欠な存在であり、その役割の本質について中西²⁾は、必要に応じ豊かな経験と知識をいつでも披露できる能力を備えたリソースパーソン（学識経験者）であることを挙げている。また前川³⁾は、臨地実習では学生をチームの一員として受け入れることを前提に、看護師は学生に何かを教えなければならないということだけでなく、看護の日常を学生と共有することが重要としている。これらのことから実習指導者は、学生と一緒に看護実践するというだけでも、十分にその学習を助けているといえる。

しかし多くの実習指導者は、個々の学生に応じた指導を行うのが困難であることから自己の指導能力が不足と考え、自信をなくしている状況にある⁴⁾⁵⁾⁶⁾⁷⁾。これは、実際には看護実践するという以上以上の役割が課せられているためではないだろうか。実習指導者の役割は様々な形で成文化されており、山田⁸⁾は、先行文献から実習指導者の役割を抽出したところ209項目に上り、更にそれを整理したものと現在求められる役割は必ずしも一致しないと報告している。また、受講していることが実習指導者の資格要件である厚労省または都道府県主催の実習指導者講習会では役割についての講義があるが、その内容は受講者以外知ることができない。これらのことから、実習指導者の役割が共通理解されているとは言い難い。

実習指導者に関する研究の概要としては、全体的な動向⁹⁾¹⁰⁾と抱えている問題や不安¹¹⁾¹²⁾が明らかにされて

いる。それらによると、実習指導者を対象とした研究は増加傾向にあり、実習指導者が不安を軽減し十分に学生を支援するためには、その役割を自他共に明確化していくことが課題とされている。しかし、実習指導者の役割に関して何が明らかになっているのかを捉えた先行研究はない。

そこで本研究では、実習指導者の役割について検討した研究を分析し、その動向と今後の課題を明らかにすることを目的とする。

II. 研究方法

1. 本研究における用語の定義

「臨地実習指導者」とは、看護基礎教育の臨地実習施設に勤務し、学生の指導を担当する看護師とする（以下実習指導者とする）。

2. 対象文献

医学中央雑誌 Web 版 (Ver. 5) および JDream II を使用し、遡及可能な全期間 (医中誌1983年・JDream II 1981年～2012年10月末日) を対象に文献を検索した。

「実習指導者または臨床指導者」と「役割」の掛け合わせを検索用語とし、会議録を除いた結果、医中誌で98件、JDream II で162件を抽出した。それらの重複を整理し内容を確認した上で、事例報告や解説など研究論文ではないもの・役割を言葉として用いているが検討対象にはしていない文献を除外し、30件を分析対象とした。

3. 分析方法

対象文献の研究目的・研究方法・結果を“実習指導者の役割に関して何を明らかにしているのか”という視点で概観し、明らかにされている内容を①役割に対する認識、②役割の実践状況、③期待される役割、④役割認識・実践状況に影響する要因に分類した上で比較検討した。

<連絡先>

齊藤 美沙

北海道石狩郡当別町金沢1757

E-mail: misaito@hoku-iryu-u.ac.jp

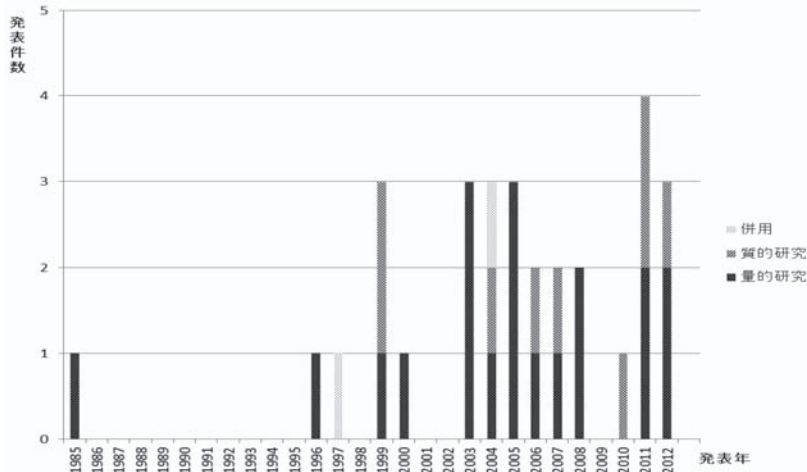


図1 発表年別の件数および研究方法

Ⅲ. 結果

1. 実習指導者の役割に関する研究の概要

発表年別の件数および研究方法を図1に示す。研究数は2003年以降増加し、継続的に発表されている。

次に、研究結果の内容を表1～4に示す。ひとつの研究が結果①役割に対する認識、②役割の実践状況、③期待される役割、④役割認識・実践状況に影響する要因を複数含む場合は、それぞれに分類している。

表1 実習指導者の役割に対する認識

著者(発行年)	目的	方法	結果
宗田(1996) ¹³⁾	指導者と補助的役割である学生係の役割意識について現状を明らかにする	自記式質問紙(内容不明)に対する回答を単純集計	指導者全員(N=29)が「後輩育成のために必要」「自分が向上するためのきっかけとなる」と回答した。
久保(1997) ¹⁴⁾	指導者のもつ指導者像・その役割を果たす上で問題となっていることを明らかにする	指導者役割52項目を自作, その必要性と実行度についての意識を調査	必要性の認識が高かった指導者役割は「学生に患者を紹介する」「学生と患者はよい人間関係がとれているか確認し必要に応じてサポートする」「学生カンファレンスは反省だけで終わらないようにする」「患者の安全・安楽が確保される範囲内で実習させる」「問題意識を持ち気付きを生むように関わる」であった。
菊池(1999) ¹⁵⁾	看護師の学生指導役割に対する意識を明らかにし, 看護専門職としての自律性との関連性を検討する	学生指導役割意識5項目を自作し調査 職務経験10年以上の対象者に関して, 看護専門職における自律性測定尺度との関連を検討	学生指導役割意識で最も平均値が高かったのは「学生指導は自分の能力開発に役立つ」であり, 低かったのは「私の看護の知識・技術は指導するのに充分である」「学生指導の役割は自分に向いている」であった。
平松ら(2003) ¹⁶⁾	看護師の実習指導に対する問題意識・役割認識を明らかにし, 経験年数との関連性を検討する	実習指導に対する問題意識14項目・役割認識12項目を自作し調査, 経験年数との関連を検討	6割以上(N=350)の対象者が“あてはまる”“どちらかといえばあてはまる”と回答した役割認識項目は「自分を振り返り自己評価の機会になる」「学ぶことが多く自分の成長につながる」「看護学生を育成するのは当然の役割である」「看護観を見つめなおす機会となる」「看護技術の基本を振り返る機会となる」「新人や後輩を育成する上での指導方法を学習する場面となる」「専門職としての自分を考える機会となる」の7項目であった。
白木ら(2006) ¹⁷⁾	指導者研修前後の看護師の実習指導に対する教師効力の変化とその関連要因を明らかにする	役割認識9項目を自作し調査, 教師効力尺度との関連を検討	ほぼ全ての看護師が実習指導が看護の質向上につながる」と認識しているが, 実習指導に対する負担感をもっていた。
武井ら(2008) ¹⁸⁾	臨床実習における教員と実習指導者の役割認識の現状を明らかにする	教員と実習指導者の役割44項目を自作しそれに対する認識を調査, 教員と指導者間の差を検討	教員・指導者共に役割認識が高かったのは, 44項目中13項目であった。 指導者の役割認識が有意に高い項目は「受け持ち患者の了解の確認」「学生と共に患者に挨拶・紹介」「学生が実施した看護技術が未熟な場合の補助」の3項目であった。
荒井ら(2011) ¹⁹⁾	はじめて看護大学生の指導を行う指導者の役割認識とその関連要因を明らかにする	白木ら(2006)の作成した4項目を用いて役割認識を調査 役割認識の2群(やりがい・関心あり群となし群)間の差を検定し個人属性との関連性を検討	「学生に関心がある」69.4%(N=121), 「実習指導に関心がある」62%, 「実習指導にやりがいがある」47.9%, 「実習指導役割は負担である」81%であった。
渡部ら(2011) ²⁰⁾	指導者の「看護実践の役割モデル」についての認識を明らかにする	「看護実践の役割モデル」とはどのような役割をする人だと認識するか自由記述, カテゴリー化	看護実践の役割モデルについて【看護実践の手本・見本となる人:モデル1】【学生が主体的に実習できるよう支援するように指導する人:モデル2】【理論(知識・技術)を実践と統合できるように指導する人:モデル3】の3カテゴリーが見出された。 回答パターンとしては, モデル1のみのパターンが最も多く, モデル2のみのパターンが最も少なかった。また, 複数のモデルを記述している対象者は31.9%(N=94)であった。
安永ら(2012) ²¹⁾	指導者の実習指導に対する問題意識・役割認識を明らかにし, 実習指導者と日々の指導者間の差を検討する	問題意識・役割認識各6項目を自作し調査, 実習指導者と日々の指導者間の差を検討	6割以上(N=21)の対象者が“あてはまる”“どちらかといえばあてはまる”と回答した役割認識項目は「看護学生を育成するのは当然の役割だ」であった。

2. 実習指導者の役割に対する認識 (表1)

多くの実習指導者は、学生を指導するのは当然である¹⁶⁾²¹⁾、学生および実習指導に関心がある¹⁹⁾、実習指導は自己を振り返る機会となる¹⁶⁾、実習指導をすることで看護の質¹⁷⁾や自己の能力¹³⁾¹⁵⁾が向上するというよ

うに、役割を肯定的に捉えている。一方で、ほぼ全ての実習指導者が役割に対する負担感をもっている¹⁵⁾¹⁷⁾¹⁹⁾とも報告されている。これらの認識は、実習指導者が役割をどのように価値づけているのかということを表す。

表2 実習指導者の役割の実践状況

著者(発行年)	目的	方法	結果
宗田(1996) ¹³⁾	指導者と補助的役割である学生係の役割意識について現状を明らかにする	自記式質問紙(内容不明)に対する回答を単純集計	指導者全員(N=29)が「指導の目的や役割を理解している」「実習要項の目標と内容を理解している」と回答した。学生係では「指導の目的や役割を理解している」87.5%(N=24)、「実習要項の目標と内容を理解している」66.7%であった。
久保(1997) ¹⁴⁾	指導者のもつ指導者像・その役割を果たす上で問題となっていることを明らかにする	指導者役割52項目を自作、その必要性と実行度についての意識を調査	必要性の認識と実行度の差が大きかった役割は、「実習指導計画を作成する」「習得した知識・技術をスタッフに伝え一緒に実践する」であった。
阪本ら(1999) ²²⁾	学生が援助と受けとめた関わりに焦点を当て、指導者の態度および教授行動の特性を明らかにする	「指導者から受けた指導で印象に残った場面とその時の指導者の関わり」について、学生がよい印象として記述した内容を抽出しカテゴリー化	学生が援助と受け止めた実習指導者の関わりとして「学生に対する関心を示す態度」「学生に対する支持的態度」「教育に対する前向きな態度」「学習の深まりや理解を促す指導」「学習の方向性を示す指導」「看護者としての役割モデルを示す指導」「教育環境の調整」の7コアカテゴリーが見出された。
舟越ら(2003) ²³⁾	実習指導者が学生の指導についてどう思っているかを、自己評価スケールを用いて明らかにする	ECTBスケール(石川ら作成, 1991)を用いて役割の実行度を調査、対象者の背景毎に有意差を検定	8割以上(N=118)の看護師が「いつもそうである」「だいたいそうである」と回答した項目は「学生に対し裏表なく素直ですか」「学生がうまくやれた時にはそのことを伝えていませんか」「患者様と良い人間関係をとっていますか」の3項目であった。「いつもそうである」「だいたいそうである」と回答した看護師が2割であった項目は「記録物についてのアドバイスは、タイミングをつかんで行っていますか」「より良い看護援助をするために、学生に文献を活用するように言っていますか」「実習グループの中で、学生が互いに刺激しあって向上できるように働きかけていますか」の3項目であった。
芦刈ら(2004) ²⁴⁾	院内研修を受講した実習指導者の実習指導に対する意識の変化を明らかにする	実習指導振り返り表20項目(松井作成, 2003)を用いて役割の実行度を調査、研修中・研修後で比較	研修中役割の実行度が「少しはできている」に満たなかった項目は「学生の看護計画がスタッフに浸透・反映されているか」「学生に看護のおもしろさやわかる体験をさせているか」「意図的に看護を語る機会をもつことにしているか」であった。
本永ら(2004) ²⁵⁾	指導者としての成果責任を検討する学習会前後での、指導者の意識・行動の変化を知る	指導者の業務活動6項目(学習会で自作)について、学習会前後で意識・行動の度合いを調査	指導者が自分たちが日々行っている指導者業務を洗い出したところ「卒後教育を実施する」「自己の臨床指導能力を開発する」「スタッフ個々の臨床実践能力を開発する」「指導的役割の取れる人を育成する」「学生・研修生を教育する」「教育環境を整備する」の6項目が見出された。「学生・研修生を教育する」「教育環境を整備する」については意識・実践共に高かったが、他の業務活動4項目では全て、実践が意識を下回った。
亀山ら(2005) ²⁶⁾	実習指導者の教育活動の状況と学習ニーズの関連を明らかにする	実習指導者の教育活動20項目を自作し活動状況を調査、教育活動状況・学習ニーズと他の要因との関連性を検討	活動状況の平均得点が高かった項目は「安全・安楽を検討した基本に基づく看護提供の実践」「科学的根拠に基づく看護援助の実践」「看護者としてのコミュニケーション能力」「人的環境の整備」「学習目的に応じた教材の選定」であった。活動状況の平均得点が低かった項目は、「スタッフに対する教材観・学生観・指導観の明示」「実習指導の方向性を統一できるようスタッフを指導する」「実習展開を予測し、指導案を作成する」であった。
中谷ら(2006) ²⁷⁾	看護学実習を通して学生が知覚する看護師のロールモデル行動を明らかにする	「ロールモデルに出会ったことがある場合、その看護師の態度や行動を具体的に」学生が自由記述、内容分析	学生がロールモデル行動として知覚する機会が特に多い看護師の態度や行動は「誰に対しても親身になって誠実に対応する」「指導の時機・場所・方法を工夫する」「患者の意思や立場を尊重し看護を実践する」であった。
八尋ら(2007) ²⁸⁾	実習指導者への研修効果を明らかにする	実習指導者行動アンケートを自作、研修前後での認識・行動の変化を比較	研修前の「よくしている」「している」割合は「よき看護実践者である」75.1%(N=13)、「教育的な行動ができる」50.0%、「人間関係に巧みである」46.7%、「専門性を高める努力をしている」46.2%であった。
米田ら(2008) ²⁹⁾	実習指導者講習会の修了者が役割を遂行する上での状況や心理的状態を明らかにする	実習指導者講習会および実習指導に対する意識について半構成的面接、カテゴリー化	「実習指導者の役割を遂行する」というカテゴリーが見出され、それを構成するサブカテゴリーは「学生の安全を確保する」「学校との連携」「効果的な指導方法を実施する」「実習環境を調整する」「スタッフとの調整」「実習指導案を活用する」であった。
志田ら(2011) ³⁰⁾	実習指導者講習会の修了者が、講習会でどのような経験をし、それをどのように役立てて指導者としての役割を遂行しているのか、またその影響要因を明らかにする	講習会での学び、修了後その学びを学生指導にどのように活かしているか、学生を指導する上で困難を有した・充実感を得た体験について半構成的面接、mGTA	実習指導者講習会の修了者は、先輩の実習指導者を見ることにより役割を具体的にどのようにしたらよいかの理解し、「指導方略の模索」「学生の居場所の確保」に取り組んでいた。一人で解決できない場合は「スタッフ間の学生指導の統一化」を図ったり、「教員との連携」を行っていた。
安永ら(2012) ²¹⁾	指導者の実習指導に対する問題意識・役割認識を明らかにし、実習指導者と日々の指導者間の差を検討する	問題意識・役割認識各6項目を自作し調査、実習指導者と日々の指導者間の差を検定	6割以上(N=21)の対象者が「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した役割認識項目は「実習の目標を把握し指導しよう心がけている」「学生の学習態度やどのくらいの知識があるのか把握しよう心がけている」であった。実習指導者と日々の指導者との間に有意差はみられなかった。

表3 実習指導者への役割期待

著者(発行年)	目的	方法	結果
北川(1985) ³¹⁾	専任教員と指導者の実習指導の現状および学生が両者に期待することを明らかにする	自作の項目に関して、教員または指導者から主に指導を受けた項目・指導を受けた項目を学生に選択してもらい、単純集計	学生が指導者に指導を受けたいと回答した項目は「患者・家族との人間関係」「ニーズの把握」「具体策」「検査・処置の介助」「患者指導」「患者への精神的援助」「学生の不安や悩みの解決」であった。
村谷ら(1999) ³²⁾	精神看護実習を終えた学生が実習指導者の役割をどのように捉えているか明らかにする	学生が考える指導者の役割・指導者と教員の役割で異なる点に関する自由記載、分析方法の記述なし	学生は、指導者は患者をよく理解しているので情報提供と具体的な対応の指導をしてほしい、教員は学生を理解しているため個々に合った実習の進め方や学内で学んだことと繋がる指導をしてほしいと回答した。共通項としては、心理的サポート・困ったときの相談・関係の調整が記述された。
金子ら(2004) ³³⁾	スタッフ・学生が指導者に望むことを明らかにする	①スタッフに対して指導者に介入してほしかった時期、中間報告の必要性について②学生に対して指導者に関わってほしかった時期などについて質問し単純集計	スタッフが指導者に介入してほしかった時期として挙げたのは申し送り・行動計画発表時であり、過半数が実習の状況を報告してほしいと回答した。
野崎ら(2007) ³⁴⁾	基礎看護学実習における教員と指導者が互いに期待する役割を明らかにする	指導者に期待すること・教員に期待することについてそれぞれに自由記述を求め、カテゴリー化	教員が指導者に期待する役割は、「実習指導体制の整備」「実習環境の充実」「学生への教育的な関わり」「指導者と教員の協同作業のための調整」であった。
山田ら(2010) ⁸⁾	看護教員が実習指導者に対してどのような役割を期待しているのか明らかにする	フォーカスグループインタビューから実習指導者の役割に関する語りを抽出しカテゴリー化、関連文献から抽出した役割と比較	教員が期待する実習指導者の役割31項目が抽出された。「臨床実習における看護学生の特徴を把握しておく」「実習期間中指導に専念できる勤務体制・業務内容を調整しておく」「学生を受け入れる病棟の雰囲気づくり」「病棟内のケア技術を統一・調整する」「学生の能力や準備に応じた指導を行う」「学生の学びの機会をできるだけ確保する」「学生の考えを引き出す」「ケアの効果や看護の素晴らしさを実感できる場面を見せる」の8項目は、先行する関連文献との一致がみられなかった。実習指導者に求める役割には、大学教員と専門学校教員の間で違いがあった。
藤本ら(2011) ³⁵⁾	学生が教員と看護師それぞれに求めている指導者としての資質と能力を明らかにする	学生が求める指導者としての資質と能力に関する35項目を自作、教員と指導者それぞれに求める度合いを調査し因子分析	学生が看護師に求める資質と能力は「高い看護実践能力」「看護実践に関する教育力」「意欲向上への支援」「看護実践への方向付け」という4因子で構成された。
YAMADA et al. (2012) ³⁶⁾	実習指導者の本質的な役割を明らかにする	先行研究・予備調査で設定した実習指導者の役割58項目について、教員の必要性の認識を調査	指導者の役割58項目のうち回答者全員が「必要」とした項目は「実習目的・方法・進め方を確認しておく」「実習目的に適した患者を選択する」「学生の受け持ち患者の安全・安楽を確保する」「実習における教員と自分の役割を確認し調整する」「教員と互いの指導計画を確認する」「実習調整会議に参加する」の6項目であった。実習指導者が忙しい状況になっても変わらず「必要」な役割として挙げた項目は「実習目的・方法・進め方を確認しておく」「実習目的に適した患者を選択する」「患者に実習協力への説明を行い同意を得る」「学生の受け持ち患者の安全・安楽を確保する」「学生による不十分なケアを助ける」「看護師としての役割モデルになる」「実習における教員と自分の役割を確認し調整する」「教員と互いの指導計画を確認する」「学生の記録場所やカンファレンス場所を確保する」の9項目であった。
米田ら(2012) ³⁷⁾	手術室実習で学生が実習指導者に望むことを明らかにする	学生に対して実習前オリエンテーションと指導者の関わりについて半構成的面接をし、カテゴリー化	実習前オリエンテーションについては「手術室看護師がどのようなことをしているのか聞きたい」、指導者の関わりについては「手術を受ける患者への対応が知りたい」「指導者に声をかけてもらい、質問したい」「学校側と実習内容・記録の打ち合わせは密にしていほしい」というカテゴリーが抽出された。

実習指導者が自己の役割とは何であると認識しているかについては、学生と患者の関係づくりのサポート・患者の安全安楽の保障が、複数の研究に共通している¹⁴⁾¹⁸⁾。久保¹⁴⁾はその他として、学生がカンファレンスを意義あるものにする・問題意識をもてるように関わることを挙げている。役割のうち“看護実践の役割モデル”に焦点を当てた研究²⁰⁾では、看護実践の手本・見本となることが第一義的な役割と認識されると報告している。また、学生が主体的に学習できるよう支援する・理論を実践と統合できるよう指導する

ことが役割という認識もあり、これらの重複回答があったことから、看護実践の役割モデルの捉え方は単なる手本・見本よりも広く一様ではないということも明らかにしている。

3. 実習指導者の役割の実践状況(表2)

実習指導者が実践できている役割は、患者とのよい関係に基づいた安全安楽な看護実践^{22)23)26)~28)}、実習目標・内容に適した教材の選定¹³⁾²⁶⁾、実習環境の整備²²⁾²⁵⁾²⁶⁾²⁹⁾³⁰⁾、効果的な指導方法の模索と実行²²⁾²³⁾²⁷⁾²⁹⁾³⁰⁾、

表4 役割認識と実践状況に影響する要因

著者(発行年)	目的	方法	結果
菊池(1999) ¹⁵⁾	看護師の学生指導役割に対する意識を明らかにし、看護専門職としての自律性との関連性を検討する	学生指導役割意識5項目を自作し調査 職務経験10年以上の対象者に関して、看護専門職における自律性測定尺度との関連を検討	学生指導役割意識「学生指導は自分の能力開発に役立つ」と「学生指導は自分を生かせる役割である」で経験年数5年未満と5～9年、5年未満と10年以上との間に有意差が認められた。職務経験10年以上の看護師では、学生指導役割意識が高い看護師ほど複雑な健康問題への看護方法を理論的に組み立てたり、それを主体的に実行し成し遂げる能力が高かった。
西澤ら(2000) ³⁸⁾	スタッフナースの実習指導の実態と看護者モデルとしての役割意識の関連を明らかにする	実習に関する看護者モデルとしての役割意識5項目を自作し調査、日頃と自習中の役割意識の差を検定	日頃と実習中で有意差のあった役割意識は「ケア時の科学的判断」「計画立案時や実践時における日常生活全体の考慮」であった。
舟越ら(2003) ²³⁾	実習指導者が学生の指導についてどう思っているかを、自己評価スケールを用いて明らかにする	ECTBスケール(石川ら作成, 1991)を用いて役割の実行度を調査、対象者の背景毎に有意差を検定	役割の実行度は、職位・看護職の経験年数・実習指導者自身の経験・実習指導者講習会受講の有無で有意差が認められた。
嶋屋ら(2003) ³⁹⁾	実習指導者研修受講や指導担当経験の有無によって実習指導に対する問題意識・役割認識に違いがあるか否か検討する	実習指導に対する問題意識14項目・役割認識12項目を自作し調査、指導者研修受講および指導担当経験の有無による差を検定	役割認識「上司の命令なので仕方ない」は研修受講の有無間で有意差を認めた。
芦刈ら(2004) ²⁴⁾	院内研修を受講した実習指導者の実習指導に対する意識の変化を明らかにする	実習指導振り返り表20項目(松井作成, 2003)を用いて役割の実行度を調査、研修中・研修後で比較	研修後に実行度の平均点が高くなったのは20項目中14項目、変化なしが3項目、低くなったのは3項目であった。
伊藤ら(2005) ⁴⁰⁾	実習指導者の役割に関して、必要性の認識と実行度を調査する	実習指導者の役割52項目(久保作成, 1997)の「必要性」「実行度」に関して、若年群と非若年群間の差を検定	若年群(34歳以下)と非若年群(34歳以上)間では、役割必要性の認識10項目・実行度23項目で有意差を認めた。
山田ら(2005) ⁴¹⁾	看護基礎教育時の認識が、看護師の実習指導役割意識にどのように影響しているか明らかにする	実習指導者の役割52項目(久保作成, 1997)の「必要性」「実行度」に関して、看護師が受けた基礎教育・新人教育に対する認識による差を検定	看護基礎教育において共感・尊重されたと認識している看護師とそうではない看護師間では、指導者役割の必要性の認識5項目と実行度17項目で有意差を認めた。
亀山ら(2005) ²⁶⁾	実習指導者の教育活動の状況と学習ニーズの関連を明らかにする	実習指導者の教育活動20項目を自作し活動状況、教育活動状況・学習ニーズと他の要因との関連性を検討	教育活動状況と関連がみられた要因として、指導体制(わからないと専任・兼任)・役割を担う経緯(他にいないとやりがい・納得して)・受けた教育(今回が初めてと十分教育を受けた・先輩から学べる)があり、それぞれ有意差を認めた。
白木ら(2006) ¹⁷⁾	指導者研修前後の看護師の実習指導に対する教師効力の変化とその関連要因を明らかにする	役割認識9項目を自作し調査、教師効力尺度との関連を検定	研修前後とも学生指導への関心・やりがいがあると認識している群で教師効力が高かった。役割認識は全ての項目で研修後にポジティブな変化を示した。
八尋ら(2007) ²⁸⁾	実習指導者への研修効果を明らかにする	実習指導者行動アンケートを自作、研修前後での認識・行動の変化を比較	研修後に「よくしている」「している」割合が増加したのは、「よき看護実践者である」「教育的な行動ができる」「専門性を高める努力をしている」であった。「人間関係に巧みである」は研修後に上記の割合が減少していた。
荒井ら(2011) ¹⁹⁾	はじめて看護大学生の指導を行う指導者の役割認識とその関連要因を明らかにする	白木ら(2006)の作成した4項目を用いて役割認識を調査 役割認識の2群(やりがい・関心あり群となし群)間の差を検定し個人属性との関連性を検討	「学生への関心」は年齢・実習指導経験年数・役職・指導者講習会受講歴で、「実習指導への関心」は実習指導経験年数・役職・指導者講習会受講歴で、「実習指導のやりがい」は年齢・役職・指導者講習会受講歴で、「役割の負担感」は実習指導経験年数で有意差を認めた。
志田ら(2011) ³⁰⁾	実習指導者講習会の修了者が、講習会でどのような経験をし、それをどのように役立てて指導者としての役割を遂行しているのか、またその影響要因を明らかにする	講習会での学び、修了後その学びを学生指導にどのように活かしているか、学生を指導する上で困難を有した・充実感を得た体験について半構成的面接, mGTA	実習指導者の役割遂行を困難にするのは、「乗り越えられないスタッフとの壁」であった。一方、実習指導者の役割遂行を助けるのは【教員との連携】であり、このカテゴリーは「教員へのフォロー依頼」「教員との指導の統一化」「教員への要望」という概念で構成されていた。

教員との連携²⁹⁾³⁰⁾、誠実で支持的な態度²²⁾²³⁾²⁷⁾であった。

実行度が低い役割は、記録や文献活用へのアドバイス・グループダイナミクスの促進²³⁾、知識・技術を伝達しスタッフナースの看護実践能力を高めること¹⁴⁾²⁵⁾であった。

実践状況が一樣でなかった役割は、スタッフナースに学生の状況や指導方針を明示・指導すること¹⁴⁾²⁴⁾²⁶⁾³⁰⁾、学生指導計画の立案¹⁴⁾²⁶⁾²⁹⁾であった。

4. 実習指導者への役割期待(表3)

学生が実習指導者に期待する役割は、患者への具体的な対応の指導と心理的サポート³¹⁾³²⁾³⁷⁾であった。また、学生が看護師に求める能力は、優れた看護を実践

し学生にもそれができるように支援することであった³⁵⁾。

教員が実習指導者に求める役割は、患者の安全安楽の確保³⁶⁾、実習指導体制や環境の整備・役割モデルとして看護を実感できる場を提供すること⁸⁾³⁴⁾³⁶⁾、実習段階や学生の能力に応じた指導⁸⁾³⁶⁾、教員との連携³⁴⁾³⁶⁾であった。

スタッフナースが実習指導者に求める役割は、学生と患者状況についてやりとりする場面への介入・実習の進行状況に関する報告³³⁾であった。

5. 役割認識と実践状況に影響する要因(表4)

役割認識を肯定的にする要因と役割の実行度を高める要因は共通しており、看護職としての経験年

数¹⁵⁾¹⁹⁾²³⁾、実習指導経験年数・役職・実習指導者講習会受講歴¹⁹⁾²³⁾、院内研修¹⁷⁾²⁴⁾²⁸⁾であった。役割の実行度を高める他の要因として、指導体制を理解していることや実習指導に関する教育を受けているという自覚²⁶⁾、自分が看護基礎教育時代に実習指導者に共感・尊重されたという認識⁴¹⁾、教員との連携³⁰⁾などが報告されている。

一方、役割の実践を阻害する要因は、スタッフナースとの実習指導に対する認識の隔たりであった³⁰⁾。

IV. 考察

実習指導者の役割に対する認識・役割の実践状況・期待される役割を比較検討した結果、他者からの期待を認識しよく実践できている役割とそうではない役割があることがわかった。それらの内容を基にして、今後の課題を考察する。

1. 実習指導者自身が捉える役割の混乱

実習指導者の認識と他者からの期待が一致し実行度も高い役割は、患者の安全安楽の保障と学生への効果的な指導であった。実習指導者は、患者の安全安楽が守られる範囲内で実習できるように¹⁴⁾、学生による未熟なケアを補助している¹⁸⁾。学習の対象が看護実践である以上、患者へのケアの質の保障が第一義となるため、実習指導者である以前に看護者としての役割を果たすことが必要になる。従って患者の安全安楽の保障は、看護者として当然果たすべき役割であることから、実習指導者の基本的な役割として自他共に認識され実践できているものと考えられる。また学生への効果的な指導に関して、実習指導者は、学生が主体的に実習できるよう²⁰⁾、実習目的・目標²⁶⁾³⁶⁾や学生の能力・準備状況⁸⁾²¹⁾に応じて、指導方法を工夫している²⁷⁾。看護学辞典⁴²⁾では教員も含む実習指導者の役割を、カリキュラムにおける科目の位置づけやプログラムに精通していることのほか、学習者に適切なフィードバックを行ったり適切な環境を選択・整備することと規定している。このうち実習の位置づけを理解しその学生に適した指導を行うという部分が、実習施設側の指導者の基本的な役割として認識・実践されているといえる。

一方、実習指導者が自己の役割として認識・実行しておらず、他者からも期待されていない役割として、記録や文献活用へのアドバイス・学生のグループダイナミクスの促進²³⁾、スタッフナースの看護実践力向上²⁵⁾が挙げられる。前者は主に教員の役割、後者は中堅ナースの役割と認識され、実習指導者の責任の範疇を超えるという意味合いで、重要な役割とは見なされていないと考えられる。

これらのことから、実習指導者の普遍的な役割として明らかになっているものは、患者の安全安楽の保障

と学生への効果的な指導であり、それ以外は不必要なものまで役割として検討されているといえる。また、実習指導者の自己の役割に対する定義は一様でない²⁰⁾とされ、指導者自身が捉える役割にも混乱があると考えられる。従って、共通理解を促すに足る役割を明確化していくためには、対学生における役割・教員との差異という部分を焦点化した上で、実習指導者自身の認識を質的に検討していく必要がある。

2. 教員との連携という役割の不明瞭さ

実習指導者が他者からの期待通りに実践できているものの自己の役割だという認識が薄いのは、実習環境の整備・学生への心理的サポート・教員との連携であった。実習環境の整備と学生への心理的サポートに関しては、実習指導者が自分だけの役割ではないと考えているのではないだろうか。山田⁸⁾は実習指導者の役割として、「実習期間中指導に専念できる勤務体制・業務内容を調整しておく」「病棟内のケア技術を統一・調整する」ことを挙げている。これらの環境整備は、実習指導者が看護管理者やスタッフナースと協同して行うものといえる。心理的サポートは学生が実習指導者と教員双方に求める役割であり³¹⁾³²⁾、実習指導者の場合学生との関係形成には時間的制約が避けられない。これらのことから実習指導者は、実習環境の整備と学生への心理的サポートという役割は状況により責任の度合いが一様ではないと認識していると考えられる。

一方教員との連携に関しては、実習指導者が自分だけの役割ではないと認識している可能性は低い。学生への効果的な指導という普遍的な役割を果たすために、教員との連携は不可欠である。しかしながらそれに対する役割認識が薄い要因のひとつは、教員との連携という役割の中身が不明瞭であるためではないだろうか。志田³⁰⁾は、実習指導者による教員との連携とは教員へのフォロー依頼・教員との指導の統一化・教員への要望という概念で構成されているとしているが、その他本研究の対象文献では教員との調整・役割の確認などの表現に留まり具体的内容は不明確であった。また、大学教員と専門学校教員が求める役割は異なる⁸⁾とされ、どの教員と連携するかによって求められる役割が変化するという状況もある。そのような中で、教員との連携は大枠で実践できている、何をどのようにという具体的内容が認識されていないものと考えられる。実習の学習効果を高めるためには教員と実習指導者が学生の進捗状況を共有し、指導を適切に分担していくことが必要とされている⁴³⁾。そのためには、それらがいつどのように行われているのかという現状を把握した上で、教員との連携という役割を具体化していく必要がある。

3. 実習指導者への不十分な研修制度

他者から期待されているが実習指導者にその認識は薄く、実践状況が一様ではない役割は、スタッフナースへの実習状況の明示と指導・学生指導計画の立案であった。これらの役割を他者から期待される要因のひとつは、看護学教育の大学化ではないだろうか。役割の実践状況の測定用具として妥当性が確認されているECTB (Effective Clinical Teaching Behaviors) スケール⁴⁴⁾の中に、スタッフナースへの指導と学生指導計画の立案は挙げられていない。このスケールが作成された1991年に全国11校であった看護系大学は、2012年には209校となっている⁴⁵⁾。カリキュラム改正も重ねられ、1996年には在宅看護論と精神看護学が、2009年には統合分野が新設された。このように看護学教育の大学化が進み教育内容が変化する中で、複数の教育施設を受け入れ、チームで実習指導を担うという環境が一般化してきているといえる。そこで実習指導者は、自分が直接学生を指導するというだけではなく、スタッフナースがそれを行えるよう指導・調整するという役割を求められるようになったものと考えられる。

チームで統一した実習指導を行うための方法のひとつである学生指導計画の立案は、厚生省または都道府県主催の実習指導者講習会で学習する内容であり、講習期間240時間中60時間が費やされる⁴⁶⁾。スタッフナースへの実習状況の明示と指導・学生指導計画の立案という役割を実践できていると報告した研究の対象者は、この講習会修了者であった²⁹⁾。一方、これらの役割を果たせていないと報告した研究の対象者は、実習指導者講習会受講歴が不明であった¹⁴⁾²⁴⁾²⁶⁾。実習指導者講習会の受講²³⁾や十分な教育を受けたという認識²⁶⁾が役割の実行度を高めるということから、実習指導者に対する研修のあり方が、スタッフナースへの実習状況の明示と指導・学生指導計画の立案という役割の実践状況に影響していると考えられる。実習指導者の資格要件は原則として実習指導者講習会を受けた者とされている⁴⁷⁾が、8週間(240時間)に及ぶ講習会に全ての実習指導者が参加することは困難である。それを補うべく施設内での研修が行われるが、その内容は様々であり、実習指導者に対する研修制度は充分でないと考えられる。実習指導者が指導チームのリーダーとしての役割を果たしていくためには研修の充実が必要であり、実習指導者講習会に準ずる施設内研修プログラムの開発が求められる。

V. 結論

実習指導者の役割に関して、認識・実践状況・他者からの期待・認識と実践状況に影響する要因が明らかにされていた。

実習指導者の認識と他者からの期待が一致し実行度も高い役割は、患者の安全安楽の保障と学生への効果

的な指導であった。一方、実習指導者が自己の役割として認識・実行しておらず他者からも期待されていない役割は、記録や文献活用へのアドバイス・学生のグループダイナミクスの促進とスタッフナースの看護実践力向上であった。また、実習指導者が他者からの期待通りに実践できているものの自己の役割だという認識が薄い役割は、実習環境の整備・学生への心理的サポート・教員との連携であった。他者から期待されているが実習指導者にその認識は薄く実践状況が一様ではない役割は、スタッフナースへの実習状況の明示と指導・学生指導計画の立案であった。

今後の課題は、共通理解を促すに足る実習指導者の役割を明確化し、教員との連携という役割を具体化すること、実習指導者に対する施設内研修を充実させることである。そのために、対学生・教員との差異を焦点化した上での実習指導者自身の役割認識の質的検討、教員との連携の実態調査、施設内研修プログラムの開発といった研究が求められる。

文献

- 1) 厚生労働省. 看護基礎教育の充実に関する検討会報告書2007;<<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/04/s0420-13.html>> [2012, Oct. 14]
- 2) 中西睦子. 臨床教育論—体験からことばへ. 初版, ゆみる出版, 東京, 1983.
- 3) 前川幸子. 看護基礎教育における臨地実習の教育方法. 日本看護研究学会雑誌. 2007; 30(2): 135-137.
- 4) 近田敬子, 長田慶子, 梶尾加代子他. 看護における臨床教育の方法に関する検討—指導上困難を感じている事柄とそこのかかわり方の実態から—. CNAS Hyogo Bulletin. 1996; 3: 107-116.
- 5) 石崎邦代, 池田正子. 臨地実習指導者が抱えている指導上の困難とその支援—実習指導者へのアンケート調査より—. 日本看護学会論文集 看護教育. 2007; 38: 228-230.
- 6) 渋谷恵子, 佐藤真澄, 小松洋美, 出口雅子, 斉藤ゆかり, 岡崎由美. 臨床指導者の現状とその課題—婦長および臨床指導者のアンケート調査から—. 看護展望. 1997; 22(9): 95-106.
- 7) 米田照美, 前川直美, 沖野良枝他. 実習指導者講習会が指導者の役割遂行に及ぼした影響. 人間看護学研究. 2008; 6: 77-90.
- 8) 山田聡子, 太田勝正. 看護教員が期待する臨地実習指導者の役割—フォーカスグループインタビューに基づく検討—. 日本看護学教育学会誌. 2010; 20(2) 1-11.
- 9) 奥坂喜美子, 工藤快枝. 臨床実習指導者に関する研究の現状と課題. 日本看護学会論文集 看護教育. 2003; 34: 154-156.

- 10) 中垣明美, 千葉朝子. 臨地実習指導者に関する文献検討と今後の課題—生涯発達の視点から—. 日本看護学教育学会学術集会講演集. 2008; 18: 181.
- 11) 高木薫. 臨地実習における指導者のもつ問題—文献に見る臨地実習指導上の悩みや困難—. 神奈川県立看護教育大学校看護教育研究収録. 2001; 26: 174-181.
- 12) 尾崎幸代. 文献研究から考える臨地実習指導者の抱える不安と必要な支援—2003年から2010年の文献を対象として—. 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター 看護教育研究収録. 2012; 37: 140-47.
- 13) 宗田真理子. 指導者の実習指導に対する役割意識について. 大阪医科大学付属看護専門学校紀要. 1996; 3: 57-67.
- 14) 久保真由美. 臨床指導者のえがく指導者像と役割達成上の問題. 神奈川県立看護教育大学校看護教育研究収録. 1997; 22: 229-234.
- 15) 菊池昭江. 看護専門職における自律性と学生指導役割との関連. 日本看護科学会誌. 1999; 19(3): 47-54.
- 16) 平松幸子, 高橋亜矢子, 嶋屋順子, 松井美由紀, 山下広恵, 羽田野花美. 臨床実習指導に対する看護師の問題意識と役割意識および経験年数との関連. 日本看護学会論文集 看護管理. 2003; 34: 327-328.
- 17) 白木智子, 田邊直美. 看護専門学校と臨地実習施設による臨床指導者研修前後の看護師の教師効力—教師効力の変化と関連要因—. 日本看護学会論文集 看護教育. 2006; 37: 185-187.
- 18) 武井みあき, 西出久美, 姉崎信江, 藤原美津子, 佐藤朋子, 中込由美. 臨地実習における教員と実習指導者の役割認識の現状. 医療の広場. 2008; 48(2): 38-41.
- 19) 荒井葉子, 田村美子, 西岡美作子他. はじめて看護大学生を指導する実習指導者の役割認識. 看護・保健科学研究誌. 2011; 11(1): 31-39.
- 20) 渡部菜穂子, 一戸とも子. 看護学実習における臨地実習指導者の「看護実践の役割モデル」の認識. 弘前学院大学看護紀要. 2011; 6: 1-10.
- 21) 安永奈穂子. 実習指導に対する病棟看護師の問題意識と役割認識. 臨床今治. 2012; 24(1): 31-33.
- 22) 阪本みどり, 田辺和代, 曾谷貴子他. 看護学実習における臨床指導者の教授行動—看護学生が援助と受けとめた臨床指導者の言動の分析から—. 川崎医療短期大学紀要. 1999; 19: 55-61.
- 23) 舟越和代, 斉藤静代, 吉本知恵, 橋田由吏, 吉村敬子, 古川京美. 臨地実習における実習指導者の指導に関する意識. 香川県立医療短期大学紀要. 2003; 5: 59-68.
- 24) 芦刈智美, 石山ひろみ. 臨地実習指導者の意識の向上をめざして—実習指導振り返り表を利用して—. 九州国立看護教育紀要. 2004; 7(1): 20-26.
- 25) 本永恭子, 小館理香, 石田理恵, 米山若菜, 水田晶子. 臨床指導者の成果責任—役割の明文化を目指した臨床指導者学習会を通して—. 聖マリアンナ医科大学病院看護部看護研究集録. 2004; 12: 234-256.
- 26) 亀山直子, 水戸美津子. 臨地実習指導者の教育活動と学習ニーズ—2003年度東京都実習指導者研修受講者を対象とした調査—. 山梨県立看護大学紀要. 2005; 7: 31-42.
- 27) 中谷啓子, 本郷久美子, 松田安弘, 舟島なをみ. 学生が知覚する看護師のロールモデル行動に関する研究. 東海大学短期大学紀要. 2006; 40: 13-21.
- 28) 八尋祥子, 宮木久美, 北野喜恵他. 実習指導における自己の教育的関わりを考えるための研修効果について—ロールプレイング演習を取り入れて—. 九州国立看護教育紀要. 2007; 10(1): 24-31.
- 29) 米田照美, 前川直美, 沖野良枝他. 実習指導者講習会が指導者の役割遂行に及ぼした影響. 人間看護学研究. 2008; 6: 77-90.
- 30) 志田久美子, 袖山悦子, 望月紀子. 実習指導者が指導者としての役割を遂行していく過程とその影響要因. 新潟医療福祉学会誌. 2011; 10(2): 18-23.
- 31) 北川志のぶ. 臨床実習における専任教員と臨床指導者の役割. 看護教育の研究. 1985; 3: 27-35.
- 32) 村谷圭子, 守屋三代子. 実習指導者の役割再考—精神看護実習を終えた学生のアンケートから—. 看護教育の研究. 1999; 16: 169-171.
- 33) 金子利恵, 松尾綾子, 高橋美智子他. より良い実習環境を提供するための臨床指導者の役割. 聖マリアンナ医科大学病院看護部看護研究集録. 2004; 12: 134-136.
- 34) 野崎真奈美, 遠藤英子. 基礎看護学実習における教員と臨床指導者の連携のあり方—互いに期待する役割の分析—. 東邦大学看護研究会誌. 2007; 4: 11-20.
- 35) 藤本裕二, 山川裕子, 中島富有子, 高田清佳, 藤崎郁, 楠葉洋子. 看護学生が臨地実習において教員および看護師に求める資質と能力. 保健学研究. 2011; 23(1)9-16.
- 36) YAMADA Satoko, OTA Katsumasa. Essential roles of clinical nurse instructors in Japan :

- A Delphi study. Nurs Health Sci. 2012 ; 14 (2) : 229-237.
- 37) 米田弥里, 遠藤典子, 堀田牧代, 岡部真理, 藤本陽子. 手術室に来る看護学生の効果的な指導の取り組み—臨床指導者としての役割—. 日本手術看護学会誌. 2012 ; 8(1) : 45-47.
- 38) 西澤利美, 山田桂子, 岡崎洋子, 中川雅子. スタッファースの看護者モデルとしての役割意識—臨床実習指導との関連について—. 日本看護学会論文集—看護総合. 2000 ; 31 : 109-111.
- 39) 嶋屋順子, 松井美由紀, 山下広恵, 高橋亜矢子, 平松幸子, 羽田野花美. 臨床実習指導する看護師の問題意識および役割認識—臨床実習者研修受講および指導担当経験の有無によるちがい—. 日本看護学会論文集—看護管理. 2004 ; 34 : 329-331.
- 40) 伊藤良子, 山田豊子, 安斎三枝子, 今西誠子. 臨床実習指導における看護師役割意識調査について (第2報)—若年者群と非若年者群間の「役割意識」と「実行度」の比較—. 京都市立看護短期大学紀要. 2005 ; 30 : 111-120.
- 41) 山田豊子, 安斎三枝子, 伊藤良子, 今西誠子. 臨床実習指導における看護師の役割意識調査について—看護師の受けた看護基礎教育に関する認識から—. 京都市立看護短期大学紀要. 2005 ; 30 : 105-110.
- 42) 見藤隆子, 小玉香津子, 菱沼典子. 看護学辞典. 第2版, 東京, 2011.
- 43) 厚生労働省. 看護教育の内容と方法に関する検討会報告書2011 ; <<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000001310q.html>> [2012, Oct. 14]
- 44) 石川ふみよ, 森千鶴, 千葉恭子他. 臨床看護実習における教員評価表の妥当性と指導体制の一考察—学生の教員および看護婦に対する評価—. 東京都立医療技術短期大学紀要. 1991 ; 3 : 77-90.
- 45) 日本看護系大学協議会. 看護系大学のリスト 2012 ; <<http://janpu.or.jp/kango/k06.html>> [2012, Oct. 14]
- 46) 看護行政研究会. 看護六法平成24年度版. 名古屋, 2012.
- 47) 杉森みど里, 舟島なをみ. 看護教育学 (看護師等養成所の運営に関する指導要領について). 第4版, 東京, 2004.

受付：2012年11月30日

受理：2013年1月31日